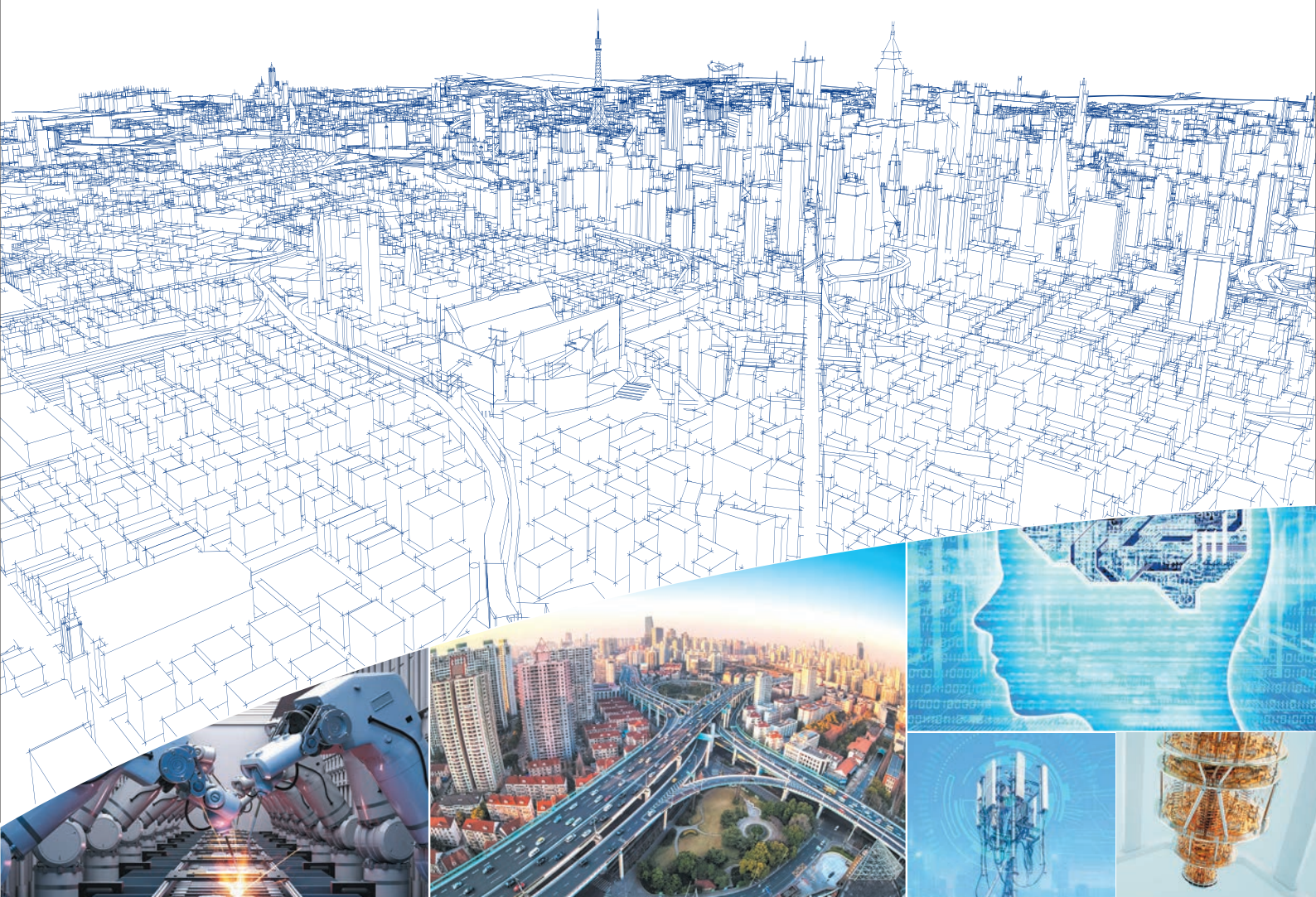


SINCE 1997

今日も会員のために

MCPC

モバイルコンピューティング推進コンソーシアム



世界をリードするワイヤレステクノロジーで 最先端 DXソリューションを追求し 飛躍的發展を目指していきます。

5G(6G)の發展とモバイル情報端末(スマートフォン、IoTエッジ端末、ウェアラブル端末など)の多様化、IoTシステムの進化、ビッグデータ処理・AI活用の充実によりモバイルテクノロジーはDX社会を創造するキーテクノロジーとしてますます重要になってきました。MCPCはさらに便利で豊かな社会の実現に向けてモバイルテクノロジーの利活用の拡大のための技術活動、普及啓発活動、人材の育成に取り組んでまいります。



MCPC 会長 安田靖彦
東京大学名誉教授
早稲田大学名誉教授

Mission

技術標準化、普及促進、顧客支援、人材育成、
人脈形成、海外からの情報を通じて、
モバイル社会の一層の發展を目指します。

MCPCは、モバイル/IoT/AIの利活用市場の發展・拡大によるDX・GX実現に向かって活動しています。そのための技術課題への対応、運用課題の調査・研究、開発の推進、標準化、接続互換性検証、普及啓発、人材育成などの活動を強化しています。さらには、USBフォーラム、Bluetooth SIG、駐日各国大使館などと連携を図りながら、モバイル利活用、IoT/AIソリューションによるDX市場形成と拡大、利用環境の高度化に努めています。

MCPC

MCPC の実践的活動が会員企業の
モバイル利活用による DX 推進
ビジネスを加速・拡大
させています。



Human Network

技術活動

WAN、LAN、NFCと広範なワイヤレスネットワークの
インターフェイスの標準化と接続検証などに取り組んでいます。

STD : Standard
GL : Guideline
TR : Technical Reference

端末インターフェイス標準仕様

- ・ STD-001-V2CS MCPC STD-001 Ver.2.0 用 AT Command Checker & Simulator(Software)
- ・ GL-001 Ver.1.0(日本語版) 3G-AT Command Implementation Guideline
- ・ その他多数

スマートフォン/タブレットのUSBインターフェイス、 安全設計ガイドライン

- ・ GL-008 MCPC USB ハンズフリーインターフェイス仕様書 Ver.1.2.1
- ・ GL-009 MCPC USB サービス切替手順仕様書 Ver.1.0
- ・ TR-021 MCPC USB インターフェイス安全設計ガイドライン Ver.2.0.3
- ・ TR-023 MCPC モバイル機器 安全設計ガイドライン Ver.3.2
- ・ TR-024 MCPC モバイル機器 安全上のご注意」記載ガイドライン Ver.1.90
- ・ その他

スマートフォン/タブレットと外部機器のインターフェイスガイドライン

- ・ GL-006 MCPC ME UART 機器接続仕様書 Ver.2.0
- ・ GL-006 MCPC ME UART 機器接続仕様書 Ver.2.0 AnnexB
- ・ 検証用評価ボードは貸与します MCPC USB/UART 機器接続仕様書 Ver.1.0 実証用ソフトウェア
- ・ その他

車載インターフェイス標準仕様

- ・ GL-010 Ver.1.0.1(日本語版) MCPC 車載通信機器 USB インターフェイス仕様書 Ver.1.0.1
- ・ TR-013 Version 1.0(j)カーエレクトロニクスへの USB 適応 Version 1.0(j)
- ・ その他多数

モバイルデバイス、IoTセキュリティの推進

- ・ 調査、研究、解説書(ガイドライン)作成
- ・ モバイルデバイス、IoT/M2M セキュリティセミナー
- ・ 調査報告書発行
- 「IoT セキュリティガイドラインに対する一般利用者の意識の実態調査」
- 「ネットワーク構築術 整理ダイジェスト」
- 「画像データの情報化対応技術」
- 「事例で見る IoT のビジネスモデル」

Bluetooth Technical Reference

JASPAR および、モバイルオーディオ協議会仕様策定連携

- ・ TR-008 Ver.1.2(e) MCPC Bluetooth Multi-Connection Technical Reference Ver.1.0
- ・ TR-009 複合 AV 機器向け Bluetooth AVRCP 実装ガイドライン Version 1.00
- ・ TR-011 Bluetooth AV Profile 向け Multi Codec 実装ガイドライン Version 1.0
- ・ TR-015 vCard implementation guidelines for Bluetooth profiles. Version 1.00
- ・ TR-022 Implementation guidelines for Bluetooth/WLAN Coexistence
- ・ TR-025 Implementation guidelines for Bluetooth Interoperability Issues Version 1.00
- ・ TR-026 Bluetooth WLAN Coexistence Technical Reference Version 1.0 Japanese
- ・ TR-027 Bluetooth SBC Parameters Recommendation Technical Reference Version 1.0 English
- ・ TR-028 Bluetooth LE Technical Reference for Interoperability Version 1.00
- ・ TR-029 Bluetooth LE Technical Consideration for ID as a Service Version 1.0
- ・ その他多数

接続互換性検証

会員各社が開発する Bluetooth(内蔵)商品の相互接続検証を行なっています。
(各プロファイル(Classic、Low Energy、LEAudio)毎に実施)

量子コンピュータ利活用の推進

量子コンピュータ(量子アニーリングを中心に)大学、企業、コンサルタントの研究者や開発者が参集し、利活用の探索と課題の抽出をおこなうとともに、利活用事例の紹介を講習会や冊子にておこなっています。また、理研量子コンピュータ研究センター(RQC)を始めとする国内の研究開発拠点を訪問し、量子コンピュータ実機の見学と意見交換等をおこなっています。



「理研量子コンピュータ「観」本体」
Copyright: RIKEN Center for Quantum Computing



「量子プロセッサチップ」
Copyright: RIKEN Center for Quantum Computing

会員向け最新技術勉強会

最新技術について一流専門講師による勉強会や、セミナーの開催(随時)

- ・ 生成 AI
- ・ ドローン
- ・ 量子コンピューター
- ・ ユーザー事例紹介
- ・ ナノコンピューター
- ・ その他最新技術

MCPCはモバイル/IoT 関連技術の仕様書、ガイドラインを策定しています。

英文のドキュメントは、米国 WTA (Wireless Technologies Association) や USB Inter-Forum Bluetooth SIG と連携して世界標準としても提案しています。

<https://www.mcpc-jp.org/news/#tab04>

普及啓発

モバイル機器利用者の安心・安全に向けた取組

MCPCはスマートフォン等のモバイル機器利用者の安全・安心を守るため、様々な活動に取り組んでいます。コネクタ焼損事象防止に向けた活動から、スマートフォン等のモバイル機器の総合的な安全基準の策定、利用者に対し正しい利用方法を訴求するためのプロモーションなどを実施しています。

■モバイル充電安全認証活動

モバイル機器を安全にお使いいただくために、MCPCは国内携帯電話事業者4キャリアと共に2016年8月、ACアダプタ、USBケーブル、モバイルバッテリーなどの充電機器を対象に安全認証制度を立ち上げました。モバイル充電安全認証とは、MCPC所定の試験に合格した製品に対して、当該製品が本認証に準拠していることをMCPCが認めるものです。

受検者は、当該製品に対してモバイル充電安全認証ロゴを使用することができ、ユーザーはその製品がMCPCの定める基準に適合しているということを明確に知ることができます。これまでに（2024年11月時点）、99製品の機器が本制度の認証ロゴを取得しています。

■安全啓発活動

利用者向けには、スマートフォンを充電する際の注意動画や事象発生メカニズムなどHPやチラシを使って安全にお使いいただくための注意事項を紹介し、正しい利用を訴求しています。また、事業者向けには、安全啓発のための素材提供、「水ぬれ充電」や「電池への衝撃」に対する危険性周知に向けたロゴ・キャッチフレーズを使用したプロモーションを行っています。MCPCは、生活インフラとして手放せなくなったモバイル機器や社会インフラとしていっそう重要性の高まるIoT機器の安全・安心の確保に向けて、今後も様々な活動に取り組んでまいります。

中小企業/ベンチャー企業支援

DX分野において先進的かつ優秀な技術を有している企業のPRの場を提供しております。

DXビジネス推進

5G、ローカル5G、メタバース、生成AI等の最新技術を活用したビジネスの変革により、社会課題の解決や業務効率化に向けた提案をおこなっています。成果を市場に告知していくため、講習会の実施、ハンドブックの発行をおこなっています。

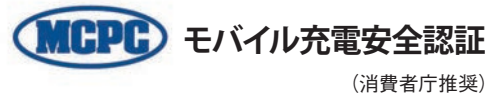
企業向け研修・講座

DX推進に向けて企業向けの研修や講座を行っております。L5Gについてすぐに役立つ知識やノウハウを習得できるL5G実践研修講座や、1日でDXの基礎的な全般知識とDX最新事例にみる構築ノウハウなどを習得し認定資格を取得できるDX入門認定研修を行っております。

駐日公館IT&モバイルフォーラム

Inter-Embassies IT&Mobile Forum (IEMF)

在日大使館などと各国のモバイル、IoTの技術やビジネス情報交換を通じて会員企業への海外情報の展開・ビジネスマッチングなどの支援を行っています。



人材育成

モバイル&IoT/AIソリューションの市場拡大に相俟ってシステムの構成要素(技術)を最適化しシステムの企画、構築、運用改善するに十分な技術水準を持つモバイル&IoT/AIエンジニアの育成が重要です。

MCPCではこれらの市場ニーズに応え、DX推進に必須の「モバイルシステム技術」、「ワイヤレスIoTプランナー」、「IoTシステム技術」の人材育成の講習会と検定試験に取り組んでいます。多くの企業、団体の推奨や総務省の後援(名義)を頂いています。

モバイルシステム技術検定

モバイルシステム技術検定はモバイルからIoT/AIまで、主要技術の理論と実践に関する技術検定試験です。本制度はIT、ICT業界からも高く評価され多くの移動体通信事業者やコンピュータメーカ、ソフトウェアベンダーはじめ多数の大手企業で取得推奨資格として認定され、延べ約85,000人(2024年9月現在)の方が受検し「ICT業界の標準資格」として位置付けられています。

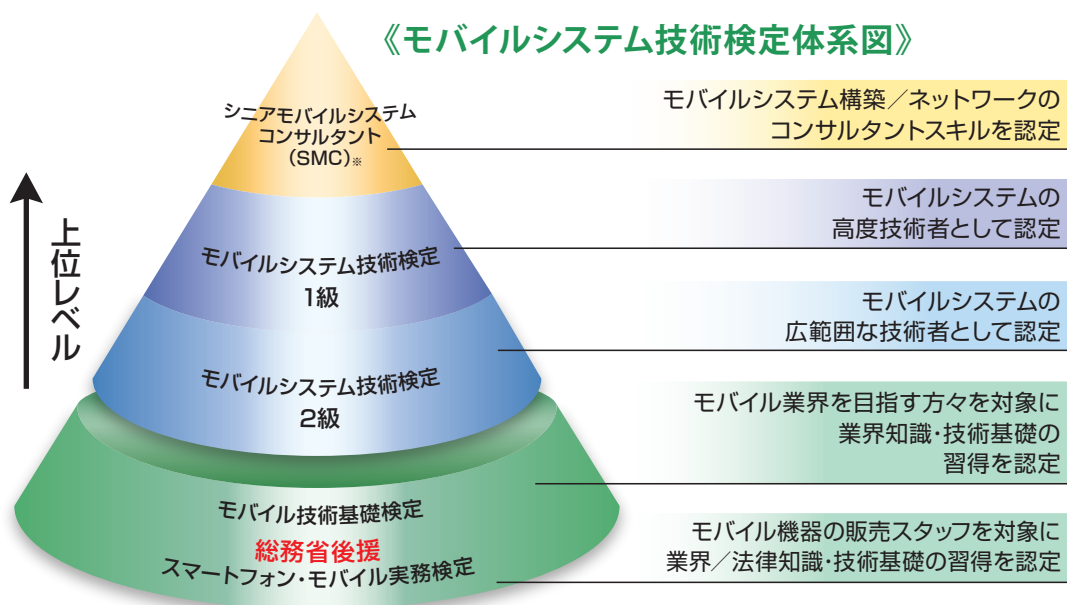
こうした活動が認められMCPCは、2007年にICT人材育成で総務大臣表彰を授与されました。また2010年3月にIEEE ComSoc(米国電気電子学会)がMCPC検定試験制度、内容を評価して推奨しています。



モバイルシステム技術検定

- 開催:5検定試験各年2回(上期/下期)
- 試験:スマートフォン・モバイル実務検定/モバイル技術基礎検定 60問/各60分
モバイルシステム技術2級検定 100問/100分
モバイルシステム技術1級検定 3科目とも38問/60分
シニアモバイルシステムコンサルタント(SMC)認定研修 小論文試験30分間
- 受検資格:実務/基礎・2級検定は、特定の資格を必要としません。
1級検定は2級検定合格者が対象です。
1級は科目合格制で3科目合格すると1級資格者に認定されます。
- 公式テキスト:モバイルシステム技術テキストエキスパート編(1級対応)
(写真) モバイルシステム技術テキスト(2級対応)
モバイル技術基礎テキスト(基礎・実務対応)

《モバイルシステム技術検定体系図》



※SMC合格者は経済産業省推奨資格【ITコーディネータ資格】の専門課程が免除されます。

ワイヤレスIoTプランナー検定

ワイヤレスIoTプランナー検定は、ユーザー企業等でワイヤレスを活用した「IoTシステムの利活用」を目指す方々に、IoTの入門から実務応用までの基礎知識を習得いただくために設けた検定資格制度です。DX/GXを推進する企業の中核リーダーとして活躍していただくことを狙っています。

検定には公式テキストをベースとした1日講習会で学ぶ認定研修型と、検定試験のみに対応する検定資格型(CBT)の2つのタイプがあります。受検者は資格取得しやすい方法を選択することができます。

総務省後援

ワイヤレスIoTプランナー検定

(認定研修)講習+理解度テスト30問/30分
(検定試験)CBT試験60問/60分

- 対象
- 企業、自治体、各種団体、地方組織・機関などで、企画/計画に携わる現場リーダー
 - DX/GXに向けてIT、ネットワークの企画/計画に携わるメンバー
 - IoT、5G、AIの導入に向けて業務を委託されているメンバー
 - 企業、自治体で業務改革に向けて取り組んでいる現場リーダー

DX基礎研修動画例

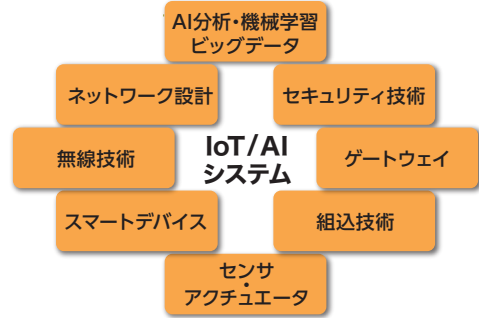


MCPC モバイルコンピューティング
推進コンソーシアム
<https://www.mcpc-jp.org/>

IoTシステム技術検定

IoT/AI時代に求められる人材には、専門性に加え共通の知識としてIoTシステムの仕組みを理解し全体を俯瞰できることが必要となります。IoT/AIはビジネス・産業などへの大きな変革をもたらしつつあり、IT技術者だけでなく経営者や営業・スタッフの方も含めリテラシーとして身に付けていくことが、DXによる変革を成功させるために必要となります。

このような要求に応え、MCPCでは多くの有識者・実務者の協力により、学ばべきIoT/AIコア技術8分野を体系化し、学びやすいテキスト「IoT技術テキスト」を更新しています。また、営業・スタッフから上位技術者まで対象者のレベルに応じた「IoTシステム技術検定体系」を提供しています。



IoTシステム技術検定

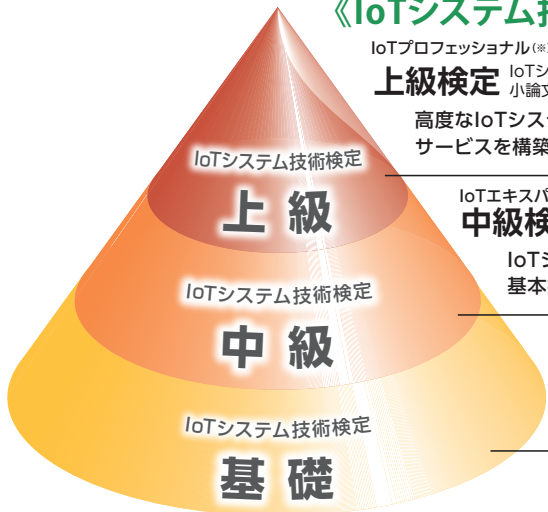
- 開催：年2回（上期／下期）
- 試験：基礎検定60問/60分、中級検定 80問/90分
- 受験資格：特定の資格を必要としません。
- 公式テキスト：IoTシステム技術テキスト 基礎編（基礎対応）（写真左）
IoTシステム技術テキスト（中級対応）（写真右）



上級検定

- 開催：年2回（上期／下期）
- 試験：IoTシステム構築・活用に関する専門技術講習を受講し論文の作成/2日間
- 受験資格：下記のいずれかに該当する者
 - ・MCPC IoTシステム技術検定 中級合格者
 - ・情報処理学会CITP認定情報処理技術者
 - ・早稲田大学 スマートエスイー修了者

《IoTシステム技術検定体系図》



IoTプロフェッショナル^(※)
上級検定 IoTシステム構築・活用に関する専門技術講座を受講し小論文を提出する

高度なIoTシステム、業界固有または業界をまたがるサービスを構築する実践的な専門技術を認定する

IoTエキスパート^(※)
中級検定 「IoT技術テキスト」を基本にIoTシステムの構築・活用に関わる技術知識について出題する
IoTシステム構築に取り組むための基本技術を認定する

IoTアドバイザー^(※)
基礎検定 大学/短大/専門学校/学生、新社会人の方々を対象
IoTに関する基礎知識を保持していることを認定する

(※)各検定合格者の呼称名です。

目標とするタスク

- ・システムの構想、企画
- ・ソリューションの開発
- ・コンサル(とりまとめ、指導、管理のイニシアティブ)

主な対象者

ユーザ企業のICT上位技術者
実務経験者
IT、ICT企業上位技術者

- ・システムの提案
- ・システムの設計
- ・システムの構築・運用
- ・システムの提案可能

ユーザ企業の中堅社員
(全部門対象)
IT、ICT企業のSE、学生、開発
(自律的行動ができる)

- ・IoTに関する基本事項
(用語を含む)の理解

ユーザ企業、IT、ICT企業の
入社1～2年目社員
営業・スタッフ 学生
(支援を得て行動)

Members

我が国を代表する企業をはじめIoT業界のリーディングカンパニーが参画。

MCPCは通信キャリア、コンピュータハード・ソフトメーカ、システムインテグレータ、自動車関連企業などの、我が国を代表する企業が参画、連携して課題解決に取り組んでいます。



協調団体 MCPCは主要なモバイル&IoT団体と綿密な連携を図っています。

国内の主要団体



海外の主要団体

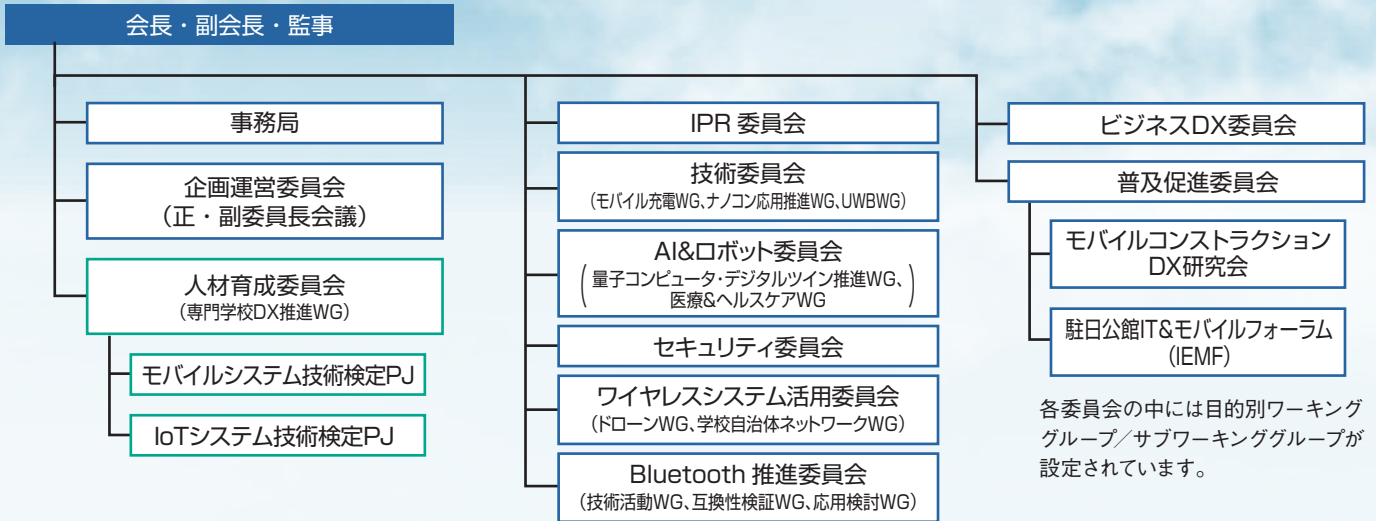


※ 順不同 其他協力団体多数



活動組織

高度モバイル&IoT/AI利活用の実現に、会員企業一丸となって前進しています。



DXの推進に向けてモバイル&IoT/AIの展開を見据えた、委員会の設置を行ってまいります。



【人材育成委員会】

モバイルシステムやIoT/AIシステム構築、DX/GXの推進に必要な知識の範囲、レベル*(スキルセット)に合わせたテキストの編集・発行、検定試験、研修を実施しています。また、専門学校学生のDX対応力、技術力向上に資する施策を行っています。(*シニアモバイルシステムコンサルタント(SMC)、モバイルシステム技術1級/2級、モバイル技術基礎、スマートフォン・モバイル実務、IoTシステム技術上級/中級/基礎、ワイヤレスIoTプランナー基礎)

【技術委員会】

モバイルシステム関連技術などの標準化、共通仕様(ガイドラインを含む)策定、接続検証評価、実践想定などを行っています。本委員会の下にモバイル充電WG、ナノコン応用推進WG、UWB-WG、USB-WGが設置され各々の専門的技術検討・調査、技術セミナーの開催を行っています。

【AI & ロボット委員会】

人工知能、ロボット等の調査をおこない、日本ならではの未来像を描きながら、社会問題解決、業界の活性化、新たな産業の創出等の提言をおこなっています。本委員会の下に医療&ヘルスケアWG、量子コンピュータ・デジタルツイン推進WGが設置され、専門的技術検討・調査と技術セミナーの開催を行っています。

【セキュリティ委員会】

モバイルデバイス、IoTに関する情報セキュリティについて、課題研究と対策を行っています。情報漏洩の事例研究・対策の啓蒙活動も継続して推進しております。また、モバイルセキュリティ・IoTセキュリティのガイドライン(冊子)作成、個人情報保護を含めたセキュリティセミナーを大学・他団体と連携しながら行っています。

【ワイヤレスシステム活用委員会】

企業、教育、地方創生等においてワイヤレスシステムの普及促進を行っています。現在のスペシャリスト不足という深刻な問題解決のため、MCPCの

得意領域を生かして、技術者の育成、ビジネスモデルの構築・運用の提供に取り組み、教科書の編纂、技術者の育成、情報共有の場、フィールドテストの共有性、プロモーション等を推進していきます。また、関係団体、省庁と連携して、ドローンWGは産業用ドローンレベル4の安全運行や運行管理に関する最新情報の提供を、学校自治体WGは学校向け生成AI活用方法の最新情報の提供を行っています。

【Bluetooth推進委員会】

日本における唯一最大のBluetooth推進組織として、Bluetooth-SIGと緊密に連携し、最新技術の調査と普及・啓発や規格カテゴリ毎の接続互換性検証の実施、実証に基づいた技術参考資料の発行等をおこなっています。

【ビジネスDX委員会】

先進的で広範な新規市場の創出につなげるため、最新技術やデータを活用したビジネスの変革を目指し、社会課題の解決や業務効率化に向けた提案、ならびに関連機関への提言に取り組んでいます。

【普及促進委員会】

モバイルソリューション、IoT/AI市場の国内外への普及啓発を目的としてさまざまなイベントを開催しています。優れたシステムを表彰するMCPCアワード、優れたシステム事例として取り上げ市場全体の活性化を目的とする事例集作成、優れたシステムを有する中小/ベンチャー企業に講演いただきビジネス支援の場を提供するセミナーの開催、グローバルな視点での在日公館との交流会を行っています。

【モバイルコンストラクションDX研究会】

モバイルエンジニアリングの建設に携わっている企業において、施工品質の向上や技術力の強化と安全対策は必要不可欠である。そのためには各社共通の課題を取り上げて、問題解決に取り組んでいきます。更にその先のDX推進に向けて、人材育成および技術革新にも積極的に取り組み業界の活性化を推進して参ります。

会員企業に貢献する

MCPC入会のご案内

MCPCでは人材育成委員会、技術委員会、AI & ロボット委員会、セキュリティ委員会、ワイヤレスシステム活用委員会、Bluetooth推進委員会、ビジネスDX委員会、普及促進委員会などに参加し、会員相互にDX推進のためのIoT/AIソリューション、モバイルソリューション推進のために協同し、親交を深め、ネットワークを広げてその成果を有効活用していただく会員を広く募集しています。



幹事会員：7社

docomo

KDDI

SoftBank

HITACHI
Inspire the Next

TOSHIBA

NEC

SHARP

正会員：27社

楽天モバイル、京セラ、日本自動車工業会、伊藤忠テクノソリューションズ、NTTテクノクロス、クレオ、NTTデータMSE、デンソー、パイオニア、フォルシアクラリオン・エレクトロニクス、NECネットエスアイ、三菱電機、ソニーグループ、リックテレコム、パナソニックコネクト、ゼネテック、東芝テック、アリオン、アイシン、富士通クライアントコンピューティング、東陽テクニカ、ミツミ電機、日本ノーベル、セイコーソリューションズ、日本アンテナ、FCNT 他
賛助会員89社 相互協力会員37団体

2024年11月現在

会員企業の特典・サービス

MCPCでは会員企業のモバイルソリューション、IoT/AIソリューションに貢献することを目的に多彩な活動を展開しております。会員企業には主要な活動成果を提供するだけでなく関連情報の発信もおこなっています。

特典・サービスの一例

- 技術委員会(ワーキンググループ)活動を通しての標準仕様の策定、研究および検証への参加
- 各種委員会活動成果による仕様書、ガイドブック、ガイドライン、商標等の利用
- Bluetooth接続互換性検証その他のワークショップへの参加
- MCPC各種イベントへの参加、事例集、各種報告書、業界ニュースの無料入手
- 海外IT/ICT企業(含:ベンチャー)の最新情報の提供
- 会員向け定期無料勉強会への参加、発行書籍のサンプルの受領
- モバイルシステム技術検定およびIoTシステム技術検定受検料、テキスト代金の会員割引
- モバイル充電安全認証の優先実施と、費用の会員割引

DX=5G×AI×IoT

MCPC

(法人番号：97001 5000 5356)

モバイルコンピューティング推進コンソーシアム

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-12 長谷川グリーンビル 2階
TEL.03-5401-1935 FAX.03-5401-1937

お問合せ：office@mcpc-jp.org

<https://www.mcpc-jp.org/>

検定・講習会のお問合せは



MCPC検定事務局

TEL.03-5401-1735

FAX.03-5401-1937

E-mail：msec@mcpc-jp.org

お申込み・詳細スケジュール等の検定についてはこちらへ

<https://www.mcpc-jp.org/license/index.htm>

